

学校 教育 目標	「ともに生きる社会をつくる子どもを育てます」 ・相手の話を聞き、粘り強くやりとげられるようにします。(知) ・互いを認め合い、高め合うようにします。(徳) ・自他の生命を大切に、健やかな心と体を育みます。(体) ・よいこと悪いことを判断し、進んで行動できるようにします。(公) ・様々な人とのコミュニケーションを通して、視野を広げられるようにします。(開)				
	学校 概要	創立 72 周年 児童生徒数: 280 人	学校長 原田 真由美 主な関係校: 平楽中学校 石川小学校 山元小学校	副校長 田中 芳明	2 学期制

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	平楽中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
・自分づくりに関する力 小・中9年間で4つの資質・能力「自己有用感・学ぶ意欲・コミュニケーション能力・規範意識」の定着を図ります。(ブロック共通) ・言語能力	平楽中学校 石川小学校 山元小学校 中村小学校	地域・社会とともに生きる子どもを育てます 「人とつながりから自己有用感を高める」ことができるよう、6月の小中交流会は、授業参観を伴うかたちで行う。事後研では、子どもたちの実態をもとに、育てたい資質・能力を検討、共有する。 ・各学校や地域での小中交流を通して自己有用感を高めらるよう活動計画を立てて実行する。

中期 取組 目標	<ul style="list-style-type: none"> ○「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校づくりを推進します。 ・児童理解に努め、安心できる居場所づくりと子どもの自己有用感を大切にします。 ・人と人とのつながりを基盤とした学校づくりに努めます。 ・家庭・地域・関係機関との連携を深め、開かれた学校づくりに努めます。 ・全教職員が主体的に学校経営に参画していくようにします。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	①自ら課題や学習内容を捉えられるような学習活動を計画し、より多くの子どもたちが主体的に表現できるようにする。 ②チャレンジタイムでは、「基礎学力の向上」をめざし、子どもたちの実態に合った課題を設定する。
徳 豊かな心	①全教職員の人権意識を高め、人権教育構想図に基づく教育活動の見直しと改善を常に行い、誰もが安心して豊かに学校生活を送ることができるようにする。 ②人権週間の取り組みに加え、年間通した計画的な横浜プログラムの実施、アセスメントを活用した「アさん」やクラスの見とりを行う。
体 健やかな体	①「体力向上」をめざし、休み時間後のランニングや各イベントなどを児童会活動を基盤に実施する。 ②「一生使える健康な歯」をめざし、歯科保健教育を実施し、歯みがきの習慣を培う。
公 開 児童指導・ 地域連携	①防犯教室、非行防止教室、サイバー犯罪防止教室等を警察や関係機関と連携して、規範意識を高める取り組みを計画的に行う。 ②学校だよりやホームページ、懇談会などで学校の様子を積極的に発信し、学校行事などへの参加を促す。
いじめへの対応	①いじめの未然防止のため、人権運営委員会、重点研推進委員会、多文化と連携し、YPアセスメント、横浜プログラムの実施、チャレンジタイムなどに取り組む。 ②いじめ防止対策委員会を月1回行い、教職員のいじめへの意識を高め、いじめ認知を全教職員で共有すると同時に、再発防止に努める。 ③児童や教職員等へのアンケート、家庭訪問や個人面談、子どもの教育相談を丁寧に行い、いじめの早期発見に努める。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①メンターでは、メンバー同士で活発な話し合いが行えるような研修内容を計画し、経験や知識を増やしていくためにも講師を呼び計画的に研修を行っていく。重点研では、チーム研修と全体研修の両方を取り入れ、授業力や学級経営力を上げられるようにしていく。②成績処理日を設け、時間を確保する。また、毎月「業務改善」について提案できる場を職員会議に設ける。
多文化共生	①普通の授業の中で多文化共生を意識した学習を行えるようにカリキュラムを見直し、計画的に取り組む。また、各学年ごとに外国につながるゲストティーチャーを招き、多文化理解に重点をおいた授業を行う。 ②「国際理解週間」や「世界の時間」などを通して、全校児童が多文化に触れる機械の充実を図る。
特別支援学校 との交流	①各学年・学級ごとに特別支援学校との交流や「共同学習」を年間の見直しをもって計画的に行っていくとともに、写真や文章などの記録に残していく。②「共同学習」では、それぞれの子どもの育てたい姿や学習のねらいを明確にして、両校の職員がともに考え、具体的な取り組みを検討し、実践していく。
特別支援教育	①支援を要する児童や外国につながる児童について「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」等を活用し、見直し、評価、支援を計画的に行っていく。また、全職員で情報を共有し、チームで生活面、学習面の両面から支援にあたる。 ②TT、国際教室、スマイル教室、学習支援等、全職員で情報共有しながら、子ども一人ひとりの支援にあたる。
担当	